最近の個人預貯金動向

1．はじめに

日銀の資金循環勘定によると，2002年９月末における家計部門の金融資産残高の前年比伸び率は株価下落による影響等で△0.4%となり，01年９月末以降減少している。うち預金は1.1%となっており,00年12月末から横ばい傾向にある。金融資産に占める預金の割合は，01年３月末の50.4%から02年９月末の52.0%へとやや上昇している。以下では,個人預貯金の動向について農協と他業態を比較しながら分析することとする。

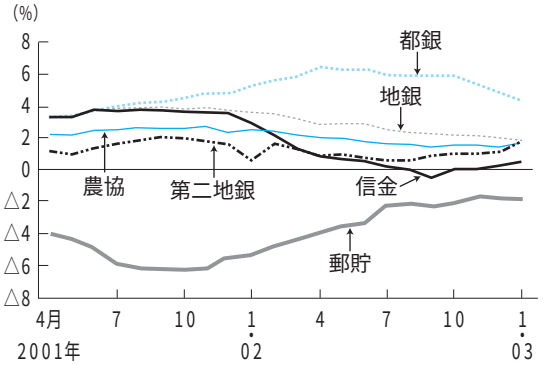
2．個人預貯金の動向

業態別に01年度下期から02年度上期にかけての個人預貯金の伸び率をみると（第１図），農協は01年11月末の2.7%から徐々に低下し,02年度上期は３月末の2.3%から９月末の1.4%となった。(注1) 都銀は02年４月からの定期性預貯金に対するペイオフ凍結解除の影響で，信用力の低い金融機関からの資金流入により，01年度下期にかけて伸び率が上昇した。しかし02年４月以降は都銀も伸び率が低下した。

02年９月以降は業態により伸び率に変化がみられる。農協はほぼ横ばいで推移しているが，都銀，地銀では低下傾向が続いている。とりわけ都銀は10月以降伸び率が大きく低下している。それに対して，第二地銀，信金では伸び率が上昇している。そのため,02年12月の伸び率は都銀が4.9%と依然高いものの，地銀(2.0%)，農協(1.3%)，第二地銀(1.3%)，信金(0.3%)の伸び率の格差は縮小している。なお，郵便貯金の伸び率は定額貯金の満期金の流出による影響からマイナスで推移しているが，マイナス幅は01年９月末の△6.3%から徐々に縮小し，02年12月末には△1.9%となっている。

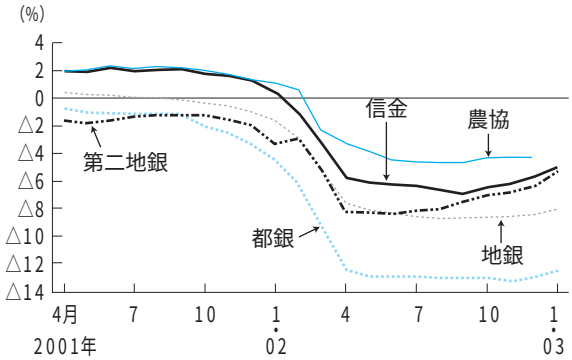
個人預貯金の種類別動向をみると，02年３月から４月にかけては大口定期預貯金か

第１図　業態別個人預貯金の前年比伸び率



資料　農協残高試算表,日銀ホームページ
(注)1.　農協は一般貯金（貯金－公金貯金－金融機関貯金）
2.　農協は末残,それ以外は平残。
3.　農協のデータは02年12月末まで,それ以外は03年1月。

第２図　業態別個人定期性預貯金の前年比伸び率



資料　第１図に同じ
(注)　農協は個人以外も含む。

ら流動性預貯金へのシフトがみられた。４月以降，定期性預貯金の伸び率はほぼ横ばいで推移してきたが，第二地銀，信金については02年９月以降マイナス幅が縮小する傾向にある（第２図）。

こうした伸び率の変化には，当初03年４月に予定されていた全面的なペイオフが05年３月まで延期されたこともあり[(注2)]，業態間の資金流出入の動きが緩やかになったこと等が影響しているものとみられる。

（注1） 貯金全体から公金貯金，金融機関貯金を差し引いた一般貯金のデータによる。

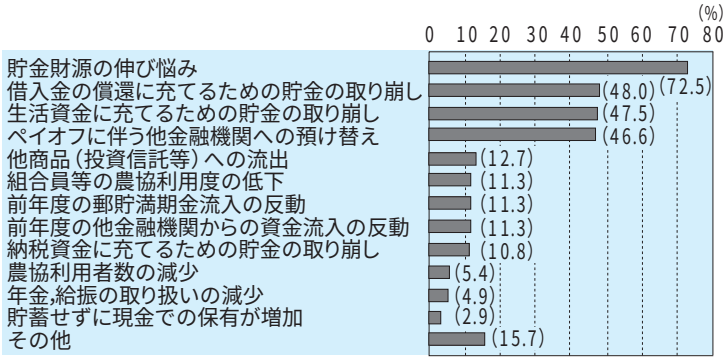
（注2） ただし，05年4月以降も「無利息，要求払い，決済サービスを提供できること」という3条件を満たす決済用預貯金（当座預貯金等）については全額保護される。

３．農協の伸び率低下要因

平成14年度第２回農協信用事業動向調査[(注3)]によると，農協の個人貯金の伸び率は02年３月末の2.3%から９月末の1.7%へと低下している。集計農協の62.2%で伸び率が低下しており，その要因としては，「貯金財源の伸び悩み」（72.5%），「借入金の償還に充てるための貯金の取り崩し」（48.0%），「生活資金に充てるための貯金の取り崩し」（47.5%），「ペイオフに伴う他金融機関への預け替え」（46.6%）が多く挙げられている（第３図）。長期化する不況により貯金財源が伸び悩むなかで，借入金の償還，生活資金に充てるための貯金の取り崩し等が，個人貯金の増減に影響しているものとみられる。

（注3） 全国の資金観測農協の協力をえて，年２回実施しているアンケート調査。平成14年度第２回調査は02年11月に実施。調査対象は405農協，集計対象は379農協。

第３図　個人貯金伸び率低下の要因（2002年3～9月末）



資料　「農協信用事業動向調査」
（注）　回答数は204農協。

４．まとめ

家計部門の金融資産は減少傾向が続いている。今後も長期化する不況の影響から生活資金に充てるために預貯金を取り崩す等の動きが出てくるものとみられ，個人預貯金全体の伸び率は横ばいないしは低下していくものとみられる。

こうしたなか，03年度は個人利用者にとって個人向け国債（発行予定額１兆5,000億円）や地方公共団体が地域住民等の個人向けに販売するミニ公募債（同2,600億円）といった選択肢が増加する。国や地方公共団体が発行している安心感等から購入が進むものと思われる。また低金利に満足できない一部の個人利用者は，引き続き対外証券投資や外貨預金等の購入を進めるものとみられ，03年度はこうした個人利用者の動向にも注意する必要があろう。

（研究員　長谷川晃生・はせがわこうせい）